

生活保護世帯が最多

厚労省 6カ月連続の増

厚生労働省は10日、昨年10月に生活保護を受給した世帯は前月より634世帯多い164万2907世帯だったと発表しました。6カ月連続で増え、過去最多を更新しました。65歳以上の高齢者世帯での受給増が要因とみられ、低賃金や年金給付の抑制など雇用・社会保障の相次ぐ改悪の

もとで、高齢者世帯で

貧困が急速に広がっている実態を示しています。

一時的な保護停止を

除く受給世帯の内訳を見ると、「高齢者」は前

年同月比2万8945世帯増の86万5332

世帯で全体の5割以上を占めました。うち約

9割が「単身世帯」で、「2人以上世帯」に比

べて伸び率も高く、単身の高齢者世帯ほど、失業や配偶者の死亡などでただちに生活保護水準となるリスクが高いことが浮き彫りになりました。

高齢者以外では「障

害者」が19万5509世帯（前年同月比34

02世帯増）で、6カ月連続で増えました。

一方、「傷病者」が22万4516世帯、「母子」

が9万2655世帯、失業者を含む「その他」

が25万6408世帯で、いずれも前年同月より減少しました。